

第3回 川越市庁舎整備審議会 議事要旨

- 1 開催日時 令和8年5月11日（月） 午後1時30分から午後3時45分まで
- 2 開催場所 川越市役所 7AB会議室
- 3 出席者 眞下英二（会長）、神田賢志、糸真美子、川口知子、高橋剛、小ノ澤哲也、
（委員） 中原秀文、菊池雅彦、高橋儀平、大鐘俊雄、加藤和徳、山崎共子、千田
＊敬称略 明寛、鈴木敏之、村田孝佑
- 4 欠席者 横田等（副会長）、及川康、大塚佳臣、後藤徳子

5 会議の概要

1 開会

吉敷賢一郎氏に代わり糸真美子氏が、大谷木康一氏に代わり大鐘俊雄氏が委員として就任することとなり、あいさつをした。

また、4月1日付の人事異動に伴い、事務局側の担当職員についても紹介を行った。

2 議事（◎会長 ○委員 ・事務局）

（1）審議に必要な資料の提供等について

○説明資料 P15 の職員の交通手段について、複数の交通手段を組み合わせる場合は重複カウントされているという理解でよいのか。

- ・説明資料 P15 は複数の交通手段を重複計上している資料である。これに対し、P16 は重複を排除し、主な交通手段のみを集計した実数ベースの資料である。主な交通手段の判定は、通勤手当額など金額面を踏まえて整理しており、例えば電車賃の方が高い場合は P16 では電車利用として集計している。

○現庁舎の敷地面積はどの程度か。

- ・現庁舎・分庁舎・東庁舎・駐車場等を含め、全体で約 12,000 m²となっており、本庁舎の建築面積は約 1,500 m²である。

○約 12,000 m²という敷地面積は今後も必要という捉え方か。それとも、事業手法等に応じて敷地面積は柔軟に設定していく考えか。

- ・必要な敷地面積は、建設地の容積率や建築条件等によって変動し得るものである。現時点では議論の出発点として現庁舎ベースの面積を提示しているが、今後の検討に応じて柔軟に条件整理を行う考えである。なお、現庁舎の敷地は建蔽率 80%、容積率 400%という

条件であり、候補地の用途地域により諸条件が変動する。

(2) 先進市視察結果の報告（川口市役所、中野区役所）

質疑は特になし。

(3) 狭あい化等の実態調査の結果

- 仮に 10 年後に庁舎が整備されたとすると、人口減少や DX・AI の進展に伴い職員数の減少も想定される。その前提を踏まえ、狭あい化をどのように捉えるべきか。また、今後の職員数の見通しについても併せて示されたい。
- ・総合計画における人口推計では、10 年後に人口は概ね 1 万人程度減少する見込みである。庁舎規模の検討に当たっては、将来の職員数や働き方の設定に複数のパターンがあり得るため、他市事例も踏まえながら検討していく。なお、他市事例では、現時点で必要とされる面積を起点に議論しているケースが見られる。今後は、生産年齢人口の減少を踏まえた DX 活用がより求められる一方、高齢者の増加により行政サービス需要の増大も見込まれるため、双方を捉えた検討が必要である。
- 会議室の利用実態について、利用率 100%となっている会議室は実際にはどのように使われているのか。
- ・物価高騰対応給付金事業等の一時的な業務が発生した際、会議室を専用の執務スペースとして使用する場合がある。庁舎が狭あい化していることも背景に、そのようなケースでは、特定の会議室が恒常的に埋まってしまう状況となる。
- 説明資料 P31 等に記載の職員数は、本庁舎に所属している人数という理解でよいか。川越市の庁舎は他市と比較しても非常に狭い印象である。
- ・当該資料は、狭あい化の根拠資料として本庁舎関係の状況を整理したものであり、ご認識のとおりである。

(4) 新庁舎整備の必要性

- 建替えを前提とした議論となると認識していたが、改修と第 2 庁舎案が示されている経緯はなにか。
- ・事務局としては、幅広い可能性を整理したうえで比較検討を行う必要があるため、想定し得る案として改修及び第 2 庁舎案も提示しているものである。ただし、庁舎課題の中でも特に狭あい化が大きな要因であり、基本的には建替えが主たる検討ラインであるとの認識である。今後市民等への幅広い説明を行っていくにあたり、後から第 2 庁舎案を検討すべきであったとの指摘が生じないよう、現時点で比較対象として提示している。

○あえて比較対象として検討しているという理解でよいのか。整理された比較を見る限り、新庁舎の方がメリットや利便性が高いように見えるが、費用面から第2庁舎案を検討しているわけではないのか。

- ・必要性の議論と費用の議論は切り分けて考えており、課題解決の観点からは、新庁舎整備の方が有効であるとの整理である。第2庁舎を整備する場合、駐車場確保や新たな用地確保等の課題も発生するため、総合的には追加課題が多いと認識している。

○説明資料 P43 の庁舎整備パターンの整理について、他市ではリース物件を活用する事例も見られる。本市ではどのように考えているか。

- ・リース活用は資金調達手法や整備手法に関わる論点であると認識している。他市では旧商業施設に賃貸借で入居する事例もあるが、現時点で具体的には想定していない。今後、資金調達手法や整備手法を検討する段階で整理していく内容であると考えている。

○目標使用年数 65 年との記載があるが、埼玉県内で 65 年以上使用している市庁舎の事例はあるか。

- ・現時点では手持ちの他市事例はない。埼玉県庁舎については、川越市より古い認識である。

○改修工事は技術的に可能との記載があるが、過去の耐震工事の検討の際には追加の使用年数は 20 年程度との検討内容があった。今回の改修案では、さらに追加で耐震工事を行う想定か。

- ・耐震補強部材の更新や、躯体を残したうえで改めて耐震工事を行うことは、技術的には可能と聞いている。ただし、現実的には課題も多く、容易ではないとの認識である。また、その場合でも床面積が拡大するわけではなく、事例も限定的であることから、現時点では具体的な金額試算までは行っていない。

◎これまでの議論の内容を踏まえると、今後は新庁舎整備をベースとして議論を進めることでよいのか。

(委員一同異論なし。)

(5) アンケート調査の実施について

○市民アンケートの回収率 40%という設定はどのような考え方によるものか。また、回収率を高めるためにどのような工夫を行うのか。広報等の活用も考えられるのではないのか。

- ・統計的に信頼性のある水準としては、回収数 400 件程度で一定の精度を確保できると考えている。回収率向上に向けては、来庁者に直接回答を依頼するなどの対応を予定している。広報紙への掲載はスケジュール上難しいが、ホームページや SNS での周知を検討している。

○設問内容は適切であると思うが、問1、問2、問3のような属性設問は最後に配置した方が、回答のハードルが下がるのではないか。設問数も多いため、回答しやすい構成にした方がよい。

- ・いただいた指摘を踏まえ検討する。

○SNSやホームページで周知するとあったが、郵送対象者以外は回答できない設計となっている。来庁者アンケートと同様に、ホームページ等から希望する方がアンケート調査に回答することはできないか。

- ・技術的には対応可能であるが、無作為抽出以外の調査の適切な実施タイミングについては事務局内で検討する考えである。

○一般の市民の方があまり関心を持たない可能性もあるため、本事業への関心を持つ方から色々な意見が聞けるのであれば、機会を設けてみてもよいのではと思った次第である。

（6） その他

○これまでは建替えの必要性の検証を中心に議論してきたが、今後は庁舎整備の方向性の議論に入るものと理解している。その際、以前から依頼しているとおり、庁舎整備をどうするか以前に、行政サービスのあり方、公共施設等総合管理計画、職員の働き方をどうするかを整理いただきたい。また、アンケート回収率については、選択バイアスをなるべく小さくするために、最大限回収率向上に努めるべきである。

- ・ご指摘いただいた点については、庁舎整備の検討に当たって重要な論点であると認識している。公共施設マネジメント等については庁内で検討を開始しており、今後、適宜検討状況を報告する予定である。

○視察先について、AIを取り入れている先進事例があれば、今後の行政サービスや働き方の参考になるため、視察先として検討してほしい。

- ・新庁舎整備とAI活用を一体的に進めている適切な事例があるか確認しつつ、働き方改革の先進地と新庁舎の先進地を1カ所ずつ等も検討させていただきたい。会議終了後にメールをさせていただくので、視察先について色々なご意見を頂戴したい。その意見を基に調整していく。

○8月は暑さが厳しいため、視察は9月にした方がよいのではないか。

- ・議会日程や相手先の都合もあるため、8月を目途としているが、総合的に調整させていただきたい。

○過去の会議資料は既にホームページに掲載されているところだが、URL を整理して共有いただけると、当日の持参資料の簡素化につながる。また、ホームページに無いものも PDF で共有いただけると助かる。

- ・紙資料とデータ資料を整理のうえ、必要な情報を委員に周知させていただきたい。

○先進市視察の感想はメールで提出したい。各委員の意見を集約したうえで、後日共有していただければと思う。

- ・いただいた指摘を踏まえ、感想記入用シートを作成し、各委員に記載を依頼したい。提出された意見を取りまとめ、次回会議で共有させていただきたい。

7 閉会

(省略)

以上